

いりヨメさん

多分ニヤカ三才のころ 親戚は有せなから
では「と」グリニソクへつれで行くはニとオウ
とありた

お学おすい花 横にかおとある お学おか
すいていさ 峰のうをく

とりろ 弟は耳か 井原さこをていさ 大又
と 照師は言少れてたと言つてい花

学校へ行もつてもおしやべりほし学かう花
専攻をたあつても自ら話をして 反逆をくくる

ことば 学かう花 席の遠くの人の自然と

友達となる程度 社会人たあつても同じつま
り 社会的で学かう花

最近付つたら学かう花 活けするが 決して社会的
でない ぶつたり型だ これでは何可成るまい

最近つと 新おつた花 母もそうだつた
何も言わ学かう花 自分の考えを さつと学か

と 不機嫌にだつた花 母はこれでも不機嫌に
には学かう花

社会的で学かう花 家庭に言うことば正即だ

であつたといふ人州樹縁が得結しとくい
 恥を多かりは辱き辱しにと氣をしとくわて
 いさういふ恥が社交のぶすし辱やだ
 月に一層は柔くくもるそん辱あふことほ
 辱し 鬼をわつしとやだ
 垢つてくわめこつとつはおいし
 同じく多辱境の人達を恥りてとつやだ
 いとさうしてしる
 恥わらうてと息子天師に
 辱しつ いのりたさうだ